

平成28年度 長寿の里 事業報告

自平成28年4月 1日
至平成29年3月31日

平成28年度 鎌ヶ谷翔裕園 事業報告

施設基本方針

～若い世代からシニア世代まで、介護現場で輝ける環境を整え、ジョイフル介護を実現～
～最高の質”を追求し、その人らしさが生きるデイサービス～

施設年度目標

- ①シニア世代(60歳以上)の積極的採用(全職員の20%目標)
- ②新卒・中途の1年を通じての確保
- ③介護ロボットの導入による介護職員への業務軽減を図り、離職率を軽減
- ④地域への地域貢献活動

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】

・前年度比で稼働率は上昇しましたが、目標稼働率達成には至りませんでした。看取りケアをしているものの、看取り開始時の疾患等と違う疾病が原因で入院され、そのまま入院が長期化して退所されるケースもあり、入院者や入院期間の減少には影響の少ない結果となりました。看取りケアの実施に関しては、他職種間で連携して協力医療機関ともスムーズに対応する事が出来ました。
・新規利用者の獲得に向け、レクリエーションの充実や営業活動を行い、入居待機者を増加させる事が出来ました。また、新規獲得のみならず、入居者においても本人や家族の意向を聴き取った上で、ニーズに沿ったレクリエーションや行事を実施し、満足の声を得る事が出来ました。さらに、ショートステイにおいて、入居待機者の中で順番の高い方をロング利用しつつ入居待ちして頂く事で、タイムラグの少ない入居への移行をする事ができ、稼働率の向上に繋がる結果となりました。

【短期入所】

・稼働率目標に届きませんでしたが、前年度比では上昇という結果になりました。
前年度比で減少し、ロング利用希望者の増加など、実人数は減少してしまいました。
や行事に合わせたスポット利用などを実施する事で、稼働率向上に繋げる事は出来ましたが、満足度を得られるショートステイ利用者限定のイベントサービスを目指し、実人数及び稼働率の向上に努めます。

【通所・鎌ヶ谷】

・稼働率は前年度から大きく上昇し、新規利用者の獲得についても年間を通して獲得する事が出来ました。追加や振り替え利用の声掛けを積極的に行い、デイサービスに来ることが楽しみと感じて頂く事が出来ました。選択活動で練習した結果を行事やイベントでご披露頂くなど、イベントや行事、選択活動などが連動しており、能動的に利用追加や活動参加をされる事も多く見られました。ご利用者のスタイルに合った活動をして頂く事が出来ました。
・機能訓練を開始した初年度でしたが、システムの構築や運用、実施に対して慣れるに留まる一年になったと言えます。機能訓練を実施していくに当たり、個々の身体機能の把握や維持・向上の為に必要な訓練の選別等、ニーズに沿った機能訓練の実施が出来るようにいたします。

【通所・つかだ】

・ほぼ全ての月を通して前年度の稼働率を超える事が出来ました。実人数、稼働率共に増加し、特に新規利用者は年度で21名と好調ではあったものの稼働率目標達成には至りませんでした。原因として、利用者のADL低下に伴う入所系サービスの増加や入院、入所等があげられます。営業活動については、訪問回数を増やすだけではなく細やかな状況の報告を意識すると共に、法人内他施設と連携を図る等して、ご利用者やご家族だけでなく居宅介護支援事業所からの信頼を得られる様に配慮して活動する事が出来ました。
・平均要介護度が減少し、ご利用者やご家族のニーズも変化した一年となりました。また、総合事業の本格的始動や地域密着型としての役割などを意識しつつ、従来のケアやレクリエーションを見直すなど、事業所の役割や位置づけを意識しながらサービスを提供いたしました。

【居宅】

・施設入所や入院などで解約件数が多くありましたが、同時に新規依頼も多く、稼働率を維持する事が出来ました。しかし、年度の後半で入院者の増加等から稼働率は大きく低下してしまい、目標の達成には至りませんでした。
・各専門職と連携を図りながら、ご利用者に対して迅速に対応して個々に合ったケアプラン作りに努めました。

【全体総括】

特養については前年度比で稼働は上昇しましたが、目標値達成には至りませんでした。
外出レクリエーションの充実や新しいイベントを適宜開催し、施設内で過ごす事多かつた時間を外出機会にあて、外出先から笑顔で戻られるご利用者を見る機会が増えました。看取りケアに関しては、対象者は多いものの入院された後に退居となるケースも少なく、協力医療機関との連携強化や看取りケアに対する勉強会を継続的に実施し、より満足度の高いサービスの提供に向けて取り組みます。また、介護職員の負担軽減にもなる介護ロボットを導入しました。計画的かつ安全に配慮した活用をいたします。
在宅部門として、デイサービスはグループにおける通所部門で年度一位の実績を残す事が出来ました。短期入所においては、前年度の実績を上回っておりますが目標達成には至りませんでした。いずれも突発的なキャンセルや利用終了が要因として考えられます。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	H27 実績	91.6	92.9	91.5	94.4	94.3	94.1	92.3	92.9	94.7	93.2	99.7	95.8	94.0
	H28 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	H28 実績	96.4	94.5	94.9	94.3	93.8	96.2	95.2	93.0	92.9	94.8	94.7	93.2	94.5
短期	H27 実績	90.8	99.1	99.0	99.5	101.2	98.7	91.6	82.6	95.0	100.2	101.5	104.7	97.0
	H28 目標	108.0	109.0	110.0	110.0	110.0	110.0	107.0	107.0	107.0	106.0	106.0	106.0	108.0
	H28 実績	101.4	90.2	89.7	97.8	100.5	95.5	92.8	98.2	100.6	98.3	104.5	102.6	97.7
通所(鎌)	H27 実績	86.6	86.6	94.6	92.9	90.6	87.4	85.4	92.6	94.3	85.1	84.3	84.9	88.8
	H28 目標	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
	H28 実績	89.5	92.3	92.3	95.3	88.8	87.9	94.1	96.2	97.3	95.3	94.9	94.2	93.2
通所(つか)	H27 実績	79.2	75.4	75.4	74.6	68.5	70.0	75.4	74.5	80.0	72.1	76.9	77.7	75.0
	H28 目標	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
	H28 実績	82.5	89.0	89.0	81.7	81.7	83.7	86.3	80.1	77.5	76.9	85.2	82.6	83.0
居宅(件数)	H27 実績	71.0	69.0	73.0	73.0	73.0	78.0	79.0	79.0	77.0	78.0	77.0	76.0	75.3
	H28 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	H28 実績	73.0	72.0	75.0	74.0	75.0	69.0	71.0	70.0	70.0	69.0	72.0	68.0	71.5

平成28年度 行徳翔裕園 事業報告

施設基本方針

～ 一人ひとりのその人らしい生活 ～ +1

一人ひとりの暮らしが、唯一無二のものと考え、その人にとってより自然で心地よい在宅生活が送れ、日々の生活の中で、家族からの+1の小さなサプライズで気持ちが充実するような、そんな生活を支援します。

施設年度目標

地域と一体の社会福祉法人施設

在宅生活が孤立せず地域のコミュニティの中で継続して送れるように、支援していきます。
複合施設の特徴を活かし、社会的活動を促進し、新活動を行って参ります。

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【軽費老人ホーム】

年間ベッド稼働率98.7% (目標99%、対目標-0.3%、前年度比、+3.5%)

①12月までは退去者が一名も出ず、12月末までの延べ入院者数が117名に対し、1月から3月までの延べ入院者数が124名と上回る結果となった。要因としては退去が出た際はどの部屋も-5日以内のベッドコントロールが出来たが、2月、3月と持病による入院者が多く出てしまった為、目標稼働に対し、-0.3%届かなかった。

来年度も継続して、入退去のロスを最小限に抑える為入居者、待機者の情報を細かく把握していく。

②I padの導入から約2年が経過した。使用方法が確立した中で、業務の簡略化には近づいてきたが、外国籍職員やシニア雇用職員など使いこなせないケースも発生した。今後、現在の使用方法のベースは崩さずに、どの様な職員でも使用が出来る活用の仕方の検討が必要。

③個別ケアへの取り組みとして、ご入居者お一人おひとりに対し、お誕生日という記念の日にご入居者、ご家族様のご要望を聞き、ご希望を叶える企画を行った。旅行、外食、思い出の地へ外出、親戚一同が集まるお食事会を開催したりと、皆様にとって思い思いの日を過ごして頂き、特別な日となった。今後も継続して行い、皆様の大切な日を最高の1日になる様にし、1年後にやってくるご自身の誕生日が待ちどしく生きがいになるようなお祝いをしていく。

④行事の多様化を目標に、様々な行事を開催してきた。藤棚見学や風鈴づくり、イルミネーション鑑賞等、季節にあった様々な外出や、漬物作りやばたもち作り、おせち料理づくり等、昔行ってきたであろう料理づくりを人生の先輩(ご入居者)の皆様には教わりながら自分たちで作る行事等多種多様な行事を提供できた。

【通所】

年間稼働率83.6% (目標90%、対目標-6.4%、前年度比+1.6%)

①前年度より向上はあったが、目標に対し5%以上満たないという結果になってしまった。前年度は19名の新規登録に対し、今年度は36名と2倍近くの新規利用者が獲得できたが、総登録者数は+6名にしかなかった。大きな稼働率向上には至らなかった。

要因として、上半期までの、サービス内容の低下、職員の連携低下があげられる。下半期には「大人の夢をカタチに変えるデイサービス」をコンセプトにリニューアルオープンし、選択レクを行った結果、上半期80%に対し、下半期は87.1%と+7.1%という結果になった。マンネリしたサービスから脱却する事により、職員の意識レベルも上がり、稼働率向上という結果となった。来年度は更なる選択レクの質の向上を図る必要がある。

②看護師の配置が整い、27年度に取得していた中重度ケア体制加算1月に再取得をした。来年度はサービス提供体制加算等、各種加算を視野に入れ、人員配置、業務内容の拡充を図る。

【全体総括】

全事業が年度目標に対して未達であったが、全事業に関して前年度比+にはなった。ケアハウスに関しては前年度に比べ大きな稼働のUPがする事ができた。通所に関して、上半期は27年度から続いた稼働の低迷をひきずる形となってしまったが、下半期はリニューアルオープンにより、低迷から脱脚できるかたちとなった。ケアハウスは料金体系が他施設に比べて高額になる為、来年度から行う予定である自費サービス、又、施設の立地等踏まえてアピールし、入居待機者の確保を行う必要がある。通所に関しては選択レクの質の向上を図り、利用率UPを目指していく。

有資格者の確保が介護支援専門員にあたっては合格者数が目標人数より下回り、介護福祉士合格者数は100%の結果となった。

勤続年数が長い職員程合格者数も少ない為、意識改革を行い、技術面や業務面だけではなく知識を持った真の介護のプロを育てていく。

今年度から開催した全6回のセミナーは平均参加人数18名と初の試みとしては上々の結果となった。社会福祉法人だからできる地域ニーズにあったセミナー・講習会を継続して行っていく。

今年度は離職者が出てしまった要因として、新入職員のフォローやコミュニケーション不足があげられる。同じ過ちを繰り返さない様、職員間の情報共有、指導体制を再構築し、職員の定着化を図る。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
軽費	H27 実績	97.0	99.0	97.3	94.6	96.8	95.4	91.4	93.9	95.5	92.0	94.6	96.7	95.3
	H28 目標	99.5	99.5	99.5	99.0	98.0	99.5	99.5	99.0	99.0	98.5	98.5	98.5	99.0
	H28 実績	99.4	99.4	97.8	99.3	99.0	99.9	99.5	98.7	99.2	98.7	96.9	96.1	98.7
通所	H27 実績	86.0	83.4	86.4	86.3	83.1	81.5	79.1	77.9	80.9	81.3	80.0	80.8	82.2
	H28 目標	87.8	87.0	87.3	87.0	88.0	91.0	91.2	91.3	91.5	92.0	92.5	93.0	90.0
	H28 実績	79.7	81.2	79.8	76.9	78.9	84.0	86.7	86.8	84.7	86.7	91.1	86.8	83.6

平成28年度 いちかわ翔裕園 事業報告

施設基本方針

～ 受動的職員から能動的職員へ ～

「一人ひとりの職員が目的、目標を持って働き、やりがいのある働きやすい職場にします」

施設年度目標

- ① ユニットリーダー研修実地施設
- ② 安定した入居稼働率の確保
- ③ 働く人に困らない先駆的な施設

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】

生活相談員

各課の連携を図り体調不良者の早期発見、早期医療機関の受診、ご家族様に確認し緊急搬送を行う事で長期入院に繋がらない様努めた。また体調不良・事故等あった際、ご家族様の面会時や電話連絡等にて状態報告・対応策の報告を行いコミュニケーションを密に図るように心掛けた。又新入居者ご家族様の信頼を得られるよう実調時より連絡を取り合い、スムーズな入居の流れを取れるように心掛けた。前年度に引き続きアコーディオン、フラダンス、カラオケ等のボランティアを1ヵ月毎に受け入れを行い、多くのご利用者様に楽しんで頂く場を設け、施設ホームページ内施設日誌に毎日更新することでご家族様だけでなく外部の方々へのアピールに繋げる事ができた。

稼働率向上の為待機者名簿上位の方への定期的な連絡を継続し行い、退居から新入居までに時間がかかってしまい稼働率98%未達成の要因の一つとなってしまった。来年度は入居申込者の多くの方々へ実調活動を定期的に行い、又老人保健施設・居宅介護支援施設に営業活動件数の目標を立て、安定した入居待機者の確保に努め稼働率低下を未然に防止します。

介護支援専門員

担当者会議の議題明確化について、平成28年度は各課事務連絡に inputs 事前に内容を確認することが出来ました。しかし議題以外の突発的な内容が追加されたり、議題から話の焦点が反れ時間が長くなってしまったケースがありました。新年度に関してはユニット推進施設として、介護課とケアチェック表のやりとりを行い、ご利用者様の生活にずれがないようにカンファレンスの見直し時期も短縮していきます。また、時間を意識し短時間でより明確な話し合いができるように、各課協力体制で行えるように致します。その他ボランティア受け入れ、新規、退院の利用者の家族を交えた担当者会議、苦情防止の家族連絡は達成できました。今後も継続してご家族様との信頼構築に努めます。

介護課

各ユニット、ユニットリーダーが中心となり個別援助計画書を作成しケアカンファレンス時に見直し、更新する事で、新入職員入職時やユニット異動時にすぐに入居者様ごとの個別の対応が出来る仕組みを構築しました。また、職員目線ではなく入居者様目線に立った設えを意識し取り組むことで、そこで生活される方が本当に落ち着いて生活できる空間を演出する事に努めました。平成28年度の大きな目標として「ユニットリーダー研修実地研修施設を目指す」という目標を掲げて選定に向けて取り組み、実地研修施設に認定して頂く事ができました。調査時にケース記録とケアプランの運動やマニュアル類の不足が課題点として浮き彫りになったので、29年度は細かな課題点の一つずつ修正し、ユニットケアの手本となれるような介護課を目指していきます。

栄養課

入居者様の身体状況変化に応じて食事内容を検討して対応しましたが、血液データ結果から低栄養状態の方が増加する結果となってしまいました。提供量に対し摂取量が少ない方に対しては少量高栄養の食事の提供が必要であり今後の課題となりました。看取り期の方に対しては各課と協力し、穏やかな生活が保てるよう身体に負担がかからない食事の検討ができたと思います。今後は入居者様、ご家族の希望を可能な限り叶えられるよう対応していきたいと思ひます。また、ユニットケアにおいては個々の暮らしを大切に、食事面で委託業者と協力しながらチームケアの実践ができるよう関わって行きたいと思ひます。

医務課

服薬管理については服薬セットミス防止の為3回確認を行い服薬セットミス防止につながっているが、服薬介助時、落葉や服薬忘れが目立つため、今後服薬方法についての勉強会を開催し再発防止に努めます。また、感染症予防については今後も勉強会を開催し蔓延防止に努めます。

【全体総括】

6・7月の稼働率低下が全体の稼働率を下げる結果となってしまいましたが、前年比+0.6%を達成することができました。稼働率低下の要因としては入院・退居者の増加が続いてしまい、新入居等の対応が間に合わなかったためと考えています。下半期では嘱託医との連携や、ご家族との看取り説明や、入居者様の日常的な活動（食事、睡眠、排泄、入浴動作等）を観察し、栄養、休息、衛生に配慮し、疾病の予防、早期発見に努めた結果、下半期稼働率97.1%と目標には届かないものの前年比±0%を確保することが出来ました。

ユニットケア実地研修施設を目指し、他施設の見本になろうと職員一同団結し、取り組みを行い、ユニットケアを実施していくための体制を整えたり、各課との議論を繰り返しました。入居者様にとって施設での生活が一律とならず、個別化されるように職員一人一人が沢山の意見を出し合い、現場で実践して反省を繰り返す、ユニットケアへの理解を深めていきました。無事合格通知をいただきましたがここで終わりではなく、ここからが始まりだと思ひます。

自施設に研修に来られた実習生にとって自施設での研修が学びの多いものになるように、また入居者様が自分らしく、尊厳の守られた生活が継続できるようにこれからも職員一同力を合わせて、入居者様のニーズと意思を尊重し、可能性の実現とQOL向上に努め、入居者様のご満足と笑顔を励みに努力していきたいと思ひます。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	H27 実績	96.8	95.5	93.7	93.7	96.2	97.4	96.5	97.9	97.8	98.5	97.0	94.9	96.3
	H28 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	H28 実績	96.4	94.3	95.7	96.9	98.1	98.3	98.4	98.7	97.3	95.7	96.6	95.8	96.9

平成28年度 ふなばし翔裕園 事業報告

施設基本方針

社会福祉法人長寿の里の『家族主義』、『感動介護』の基本理念の基、「いきいきマイライフ」をコンセプト
ご利用者がその人らしく楽しみをもちながら健康に過ごし、働く職員がいきいきと輝ける施設運営
を目指します。

施設年度目標

- ① 組織・サービスの基盤づくり
- ② 人材の確保と育成
- ③ 在宅・施設部門のワンストップサービスによる利用者の満足度向上と稼働率の確保
- ④ 地域の社会資源としての機能を果たした社会貢献の実施

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】 目標97% 対目標比-3.1% 対前年比+32.9%

- ・目標稼働率未達成となりました。要因としては入院者が増加し上期は平均6.1名/日、下期は改善傾向となりましたが、通年で4.8名/日となったことと急な逝去による退去から入居までのタイムラグが出てしまったことが大きくありますが、平成28年12月から平成29年2月は冬期の稼働率96%を維持し感染症の時期にも安定保持することができました。次年度は待機者リストの整理を行い速やかな入居を確保していくことと、多職種連携し体調不良の予防早期発見、治療を目指し、入院者減少に努めていきます。
- ・ご利用者のペースに合わせ、日々生活して頂けるよう、多職種と協力し情報を共有しながら個別ケアの実践を行いました。生活の中の楽しみとして園内でのレクリエーションへの参加や、外出レクを通じ四季を感じて頂く機会やふなばし翔裕園独自の足つぼや足湯などの設備を活用しリラックスしながら活気ある生活の支援や個別ケアとして生活リハビリや歩行訓練、立位訓練などを実施いたしました。また食事は毎月イベント食(郷土料理、行事食等)や食事レクの実施により「食事の楽しみ」を提供することが出来ました。
- ・他職種との報・連・相を徹底することを目標にし情報共有を実施致しました。また各委員会を通して勉強会や研修を実施し専門知識の向上を図ることが出来ました。次年度も定期的に研修を実施し向上を目指していきます。

【短期入所】 目標90%以上 対目標比-9.7% 対前年比+74.1%

- ・前年度5ヶ月遅れのスタートを取り戻せるよう、4月より営業の強化に努め、62名の登録者の確保ができました。しかしながら特養や他施設の長期入居や冬期はインフルエンザ、体調不良によるキャンセル等があり、目標稼働率の達成に至りませんでした。
- ・ご利用時の体調の変化に注意し、発熱等の体調変化が続く時には、ご家族に相談員より連絡し受診等の対応を行い、必要時には医師への情報提供を実施しました。また、自宅で行っていた処置等を継続して行い、皮膚の状態の変化を観察して行きました。
- ・毎月、レクリエーションや行事、調理レクなどの予定表を作成し、ご利用者や居宅介護支援事業所に広報し、登録者のリピートを目指しました。次年度はレク、行事の多様化の工夫を行い、より多くの広報を実施し新規ご利用者並びにリピーターの増加を目指し稼働率アップに繋げていきます。

【訪問介護】

- ・職員採用に難航し、通年で稼働は低迷となりました。2月より常勤職員の確保ができ、新規登録者の獲得に向けて居宅介護支援事業へ営業を強化し、連絡を密にとりサービス提供回数を伸ばすことができました。次年度は、引き続き登録ヘルパー、常勤職員の調整を行い、目標回数の達成を目指していきます。
- ・登録ヘルパーを含めた職員が顔を合わせる機会を作り、サービスの質や意識、スキルアップに向けて研修を実施しました。次年度は定期的に研修を実施し多様なサービスに対応していきます。

【全体総括】

- ・年間稼働率目標に対し全事業で未達成となりました。特に訪問介護では4月より登録ヘルパーの採用体制を整え、サービス提供を目指しましたが、雇用に難航しスムーズなサービス提供に至りませんでした。また女性ヘルパーの需要が多く、さらに同時間の希望依頼が多かった為、施設職員を活用した体制を整え、サービス追加を行いました。通年に渡り低迷となりました。次年度は居宅介護支援事業所へ営業30件/月 また平均訪問回数300/月を目指し達成を目指します。
- ・相談課の職員の入れ替わりがありましたが、ご利用者、家族との密な連絡と報告を行う事で、信頼関係の再構築が出来ました。次年度は更なる安定した基盤作りに向け、多職種協同のもと、より高いケアを目指し信頼関係の構築をまいります。
- ・ご入居者と介護職員の負担軽減を目指し、オムツゼロ等の自立支援の取り組みを実施いたしました。次年度は自立支援介護委員会を発足し、ノーリフティングの促進や自分で選択できる食事やおやつセレクメニュー、またオムツゼロ運動など、ご利用者が自立した生活を送って頂けるよう支援していきます。
- ・納涼祭、翔裕園の日等の行事を企画し、地域の方との交流を実施し、納涼祭には近隣含めた多くの地域の方が参加があり、敬老会等も含めボランティアの方の協力を頂きました。また船橋市との災害時の協定に参加し、船橋市各施設や地域包括センターとのネットワークの強化を目指し緊急ショートステイの受け入れ体制を整えました。次年度も引き続き、連携を強化し地域貢献に努めていきます。
- ・介護職員が長く働き続けられる環境を目指し超勤時間などの把握、改善に努めました。次年度は、より関係法令を意識、確認し、法令遵守した事業運営を行っています。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	H27 実績							19.8	45.3	66.6	67.1	81.8	85.5	61.0
	H28 目標	95.0	96.0	97.0	97.0	97.0	98.0	98.0	97.0	97.0	97.0	97.0	98.0	97.0
	H28 実績	90.6	93.0	94.4	92.8	91.2	92.4	93.7	95.9	96.7	96.3	97.0	93.3	93.9
短期	H27 実績							0.0	0.0	0.0	0.0	5.5	31.9	6.2
	H28 目標	60.0	73.0	83.0	90.0	95.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	90.0
	H28 実績	54.0	77.7	84.0	82.9	83.2	78.7	87.4	91.0	79.0	80.0	87.1	78.4	80.3
訪問介護	H28 目標(人)	5.0	10.0	15.0	20.0	25.0	30.0	35.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	28.3
	H28 実績(人)	3.0	4.0	6.0	7.0	9.0	9.0	10.0	9.0	12.0	15.0	40.0	40.0	13.7
	H28 実績(回)	8.0	41.0	60.0	69.0	78.0	84.0	95.0	86.0	97.0	138.0	115.0	188.0	88.3

平成28年度 かしわ翔裕園 事業報告

施設基本方針

いつまでも住み慣れた地域で「楽しく」「快適」に暮らせるよう、お客様の日々の暮らしを支え、在宅事業としての「自由」と施設としての「安心」と双方を兼ね備えた新しい住まいの形態として運営します。また常に進化すべく、常に良いもの良い方法を取り入れ変革し、多様なニーズに対応していくことで、長く安定し、充実した生活が実現できる住宅とします。

施設年度目標

地域包括ケアシステムを実現、地域社会資源を活用し個々のニーズに対応できる住宅とする。各方面と連携し入院者・体調不良者を減少させ、効果的な営業活動を実施することで高稼働率を維持・継続する。また業務のIT化、スリム化を実現させ、基盤整備を行うことで生きがい支援活動の充実を図る。

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【サービス付き高齢者向け住宅】

・年度初めより満床でのスタートであったが入院が長引き退去となる方々が増え、空室になってしまうケースがあった。施設紹介サイトやHPからの問い合わせによる新規入居希望者があり、再度満床となる。待機者の確保を目標としていたが、タイムリーに入居を希望している方がほとんどであり、達成することが困難であった。

・医療行為が必要となるケースについては往診サービスでの対応を行っているが、常時必要となるケースにおいては訪問看護などの介護保険サービスが必要となり限度額の上限から課題となっている。地域社会資源を有効活用し、介護以外の分野におけるご入居者の暮らしをサポートする関係と体制作りが必要となっている。

【住宅型有料老人ホーム】

・事業譲渡前、ショートステイ事業を行っていた居室を住宅型有料老人ホームとして下期11月からオープンした。設備面でのデメリット(居室トイレなし・居室面積狭い)を補うべく、シアタールームや図書ブース・岩盤浴ルームなどを設置。充実した余暇設備と安心のサービスで営業を行い、予約を含め年度内に満床とすることが出来た。

【通所】

・事業譲渡後の8月より営業開始となり、当初は8割台の稼働であったが、新規利用者の獲得が進まずに登録者が減少していった。相談員を中心とした外部居宅への営業活動の実践及び、既存ご利用者への曜日追加やイベント等への追加利用の内部営業を実践しており、次年度稼働率向上を実践していく。

【訪問介護】

・下期有料老人ホームがオープンしたことにより、年度末より訪問回数が飛躍的に増加している。本人都合等によるキャンセルもヘルパーの声かけによる成果で減少してきており、安定したサービス回数を提供している。

・ご利用者の増加とスタッフの増員により、情報の伝達や申し送り、ケアの統一などに課題があり、サ責を中心として着手している。

・ご利用者のADL低下に伴う、重介護、看取り状態の方への対応への体制を整え、ヘルパー一人ひとりがレベルアップし、対応できるようにしていくことが必要となっている。

【居宅】

・現在稼働中のご入居者のプランについては、常にアセスメントを行い、フォーマルな部分とインフォーマルな部分を使い分け生活全般における支援を行っている。

・ご利用者・ご家族の希望を踏まえた上で、サ高住、有料、訪問介護と連動し、ご入居者の確保とプラン件数増加を実施している

【全体総括】

・園全体としては2年目であるが、年度途中からの事業譲渡があり、当初はサ高住・訪問・居宅の3事業からデイ・有料の追加という5事業への変更とリスタートとなっており事業変更の手続き、スタッフの増員、引継ぎなどがあつた中で業務体制の構築と事業が軌道に乗るまでに期間を要してしまつた。いずれの事業においても、新規獲得及び営業活動が必須であり、広報力が必要であるので訪問営業活動は基よりインターネットなど様々な媒体を活用しての活動を展開した。

・かしわ翔裕園全体での収益が確保出来る様に各事業がそれぞれの役割を理解した上で実践力を高め、年間を通じて収益が確保出来る様に運営していく。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サ高住	H27 実績	36.6	43.0	45.7	48.3	64.0	75.0	70.0	71.7	68.0	76.0	80.0	85.0	63.6
	H28 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	H28 実績	96.0	91.0	84.9	92.0	92.0	94.0	93.9	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	93.7
有料	H27 実績													#DIV/0!
	H28 目標								15.0	30.0	50.0	70.0	90.0	51.0
	H28 実績								8.0	16.6	30.0	40.7	69.0	32.9
通所	H27 実績													#DIV/0!
	H28 目標					80.0	82.0	84.0	86.0	89.0	90.0	90.0	90.0	86.4
	H28 実績					81.0	79.0	75.5	71.5	74.5	62.5	64.4	66.0	71.8
訪問介護 (件数)	H27 実績	251.0	284.0	290.0	306.0	338.0	343.0	393.0	439.0	452.0	425.0	452.0	505.0	373.2
	H28 目標	600.0	620.0	600.0	620.0	620.0	600.0	620.0	620.0	620.0	620.0	560.0	620.0	610.0
	H28 実績	618.0	595.0	566.0	653.0	667.0	641.0	674.0	701.0	766.0	840.0	846.0	1140.0	725.6
居宅(件数)	H27 実績	11.0	15.0	15.0	15.0	18.0	21.0	20.0	21.0	23.0	24.0	25.0	27.0	19.6
	H28 目標	30.0	32.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	34.3
	H28 実績	26.0	25.0	23.0	26.0	27.0	25.0	27.0	29.0	28.0	35.0	38.0	45.0	29.5